

庁 議 録

招集年月日	平成 25 年 7 月 17 日 (水)							
開会時刻	午前 10 時 05 分	閉会時刻	午前 11 時 25 分					
開催場所	庁議室							
出席の状況 (○出席者、代は代理出席)								
1	市長	○	2	副市長	○	3	教育長	○
4	総務部長	○	5	直轄理事	○	6	財務部長	○
7	市民生活部長	○	8	理事兼政策監	○	9	健康福祉部長	○
10	産業部長	○	11	建設部長	代	12	上下水道部長	○
13	教育部長	○	14	こども部長	○	15	伊達総合支所長	○
16	梁川総合支所長	○	17	保原総合支所長	代	18	霊山総合支所長	○
19	月舘総合支所長	○	20	議会事務局長	代	21	会計管理者	代
代理出席者	11 建設部次長、12 保原副総合支所長、20 議会事務局次長、21 会計課長							
職務のため出席した者	健康福祉部次長、産業部次長、総合政策課長、健幸都市推進室長、総務課長、人事課長、秘書広報課長、財政課長							
案件説明のため出席した者								
付 議 事 案 協 議 事 項	<p>1. 議題</p> <p>(1)平成 25 年第 4 回伊達市議会定例会について 【総務部】</p> <p>2. その他</p> <p>(1)平成 25 年度工事請負費の執行状況について 【財務部】</p> <p>(2)梁川歴史と文化のまちづくり基本計画について 【梁川総合支所】</p> <p>(3)D T I 活動について 【市長直轄】</p> <p>(4)特別職主要業務予定について (7 月下半期)</p> <p>(5)その他</p>							

庁 議 の 内 容（協議経過、結論等）

1. 議題

(1) 平成 25 年第 4 回伊達市議会定例会について 【総務部】

総務部長が 9 月議会招集に向けた日程等の説明し提出議案の期限厳守を周知した。

2. その他

(1) 平成 25 年度工事請負費の執行状況について 【財務部】

(2) 梁川歴史と文化のまちづくり基本計画について 【梁川総合支所】

梁川総合支所 平成 24 年度に基本構想をまとめ、今年度は基本計画の策定を進めている。実施段階では、各部の協力をお願いしたい。

直轄理事 協力要請については、産業部で計画している観光戦略と融合させながら、観光戦略の下に推進体制を協議していきたい。

市長 地域振興は地域で考える。そういう意味でも、計画立案は総合支所の本来の業務といえる。具体的に進めるときには主管部が担当する。各総合支所も地域振興の観点で取り組んでもらいたい。

意見を述べると、①伊達氏歴史博物館の選定地 ②堀の復元 ③上杉領であった史実、須田長義 ④市営住宅の移転 ⑤八幡神社へのルート 等さらに検討すべき点がある。

時間も費用も要するが、伊達市が誇れるものをつくっていきたい。プロジェクトとしての取り組みも検討されたい。

(3) D T I 活動について 【市長直轄】

(4) 特別職主要業務予定について（7 月下半期）

(5) その他

市長発言要旨

いなべ市（三重県）

元気な地域づくりを考える首長研究会（7/11.12）に出席してきたので、その内容を報告したい。

我々の健幸都市の柱として、健康運動教室を実施してきたが、参加者が増えないという現状がある。これは、見附市も他も同じような状況にある。最近、まち中を歩く人が増え、それなりに進展はしているが、もっと沢山の市民に健康運動教室のようなものに参加してほしいと思っている。もっと取り組みやすいもの、市民が気軽にできることが大事なのだと思う。

いなべ市では、「元気クラブいなべ」という取り組みをしている。町内会単位で、15人～20人が週2回程度、運動している。各町内会では「元気リーダー」と呼ばれる有資格者が指導に当たっている。3種類くらいの簡単な運動で、気楽に参加できるところが長続きしている要因のようで、我々も参考にしていきたい。

詳しくは、健康推進課長が同行していたので、後日、報告会を行うこととする。

福祉自治体ユニット会議

福祉自治体ユニット会議（7/16）の総会に出席し、消費者庁次長（山崎さん）が講演された少子化対策の話が興味深かったので紹介したい。

山崎：「少子化対策については、日本は、今、重大な危機に立っている。タイミングを逸すると取り返しの付かないことになる。効果は40年後、50年後となるが、とにかく今やらなければならない。」

山崎：「政府は、子育て支援に力を入れている。しかし、結婚、妊娠、出産、子育て、4つの段階のときに行政はやるべきことをやらなければならない。」

山崎：「妊娠、出産を奨励するのも大切だが、第3子が生まれないことには人口は増えない。この第3子対策が大事になる。フランスやドイツでは対策を進めている。フィンランドやスウェーデンでは妊娠、出産をサポートするシステムがある。」

以上のような内容であったが、国の問題かもしれないが我々も考えなければならない。我が市は、婚活事業を実施しているが4つの段階での対策が求められるようになってくる。

後日、よくまとめて話をする機会を持ちたいと思う。

